

# SaaS(Software as a Service;サーズ)

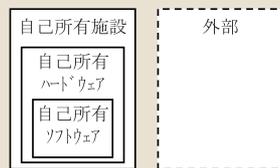
## 1. SaaSとは？

SaaSとは、業務処理ソフトウェアを自ら“所有する”のではなく、外部委託した上で、ネットワークを介して機能を“利用する”形態をいいます。

外部委託する度合いの大小で整理すると、SaaSは以下のように位置づけられます。

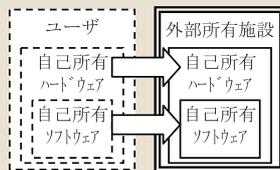
### ①自主構築(外部委託度；無)

外部に依存することなく、ユーザ自らが管理する施設内で、自ら構築するハードウェア、ソフトウェアを使用する形態



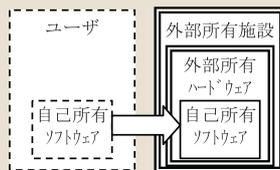
### ②ハウジング(外部委託度；小)

ネットワーク環境等の整った外部施設を利用して、自らの所有するハードウェアを設置する、場所借り形態



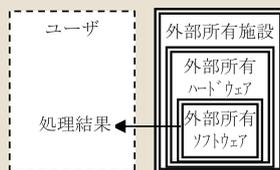
### ③ホスティング(外部委託度；中)

施設だけでなく、サーバなどのハードウェアも外部所有機器を利用し、自らの所有するソフトウェアをインストールして使用する形態



### ④SaaS/ASP(外部委託度；大)

施設、ハードウェア機器だけでなく、ソフトウェアの実行までを外部委託して、処理結果を受け取る形態



### ⑤業務アウトソーシング(外部委託度；最大)

業務そのものを外部委託して、結果を受け取る形態

## 2. SaaSとASP(Application Service Provider)

SaaSは、外部委託の形態においてASPとの違いはありませんが、SaaSでは、コンフィギュレーション技術(ユーザの要求に応じて、合理的なパラメータ設定を自動計算し、最適な画面構成等を選択で

きる仕組み)を利用して、従来のASPの弱点であったカスタマイズのしにくさを改善するなど、業務での使い勝手が良くなっています。

## 3. SaaS導入の主たるメリット

- ①情報システムリソースへの投資を抑制するとともに、即効性のある導入効果が期待できます。
- ②サービス提供側がソフトウェアの維持管理を行うため、ユーザ側は常に最新のバージョンを利用できます。
- ③既存アプリケーションと連携するためのインタフェース/ソフトウェアが、比較的多く提供されています。
- ④ライセンスを買い取る必要が無く、利用期間に合わせて料金を支払う料金体系であり、料金にはサービス提供者による運用管理、保守、バージョンアップ費用が含まれているため、ハードウェアだけでなく、ソフトウェア維持管理費用の低減も期待できます。

## 4. SaaS導入時の留意点

- ①SaaSで提供されるソフトウェアは、カスタマイズが比較的容易に行えるものの、自ら保有するソフトウェアのように大規模なカスタマイズは行えません。
- ②既存アプリケーションと連携する場合には、サービス提供者から、当該インタフェース/ソフトウェアが提供されているかどうかを確認する必要があります。
- ③複数のユーザでソフトウェアやハードウェアを共有する場合のセキュリティ対策や、万が一サービスが停止した場合の保証、バックアップやリカバリなどのサービスについて、十分確認しておく必要があります。

## 5. 今後の動向

今後は、SaaSで提供される様々なソフトウェアを、ユーザが自由に組み合わせることで、ニーズの変化に迅速に対応できる利用形態が増えると推測されます。

実際の応用においては、業務の目的、扱うデータの性質などを勘案し、SaaS型運用に合った業務かどうかを判断した上で適用することが重要です。